

モモせん孔細菌病の新梢接種試験により 病斑拡大程度が小さい育種実生個体を確認した

福島県農業総合センター 果樹研究所 栽培科

1 部門名

果樹－モモ－育種・選抜

2 担当者名

佐久間宣昭、高橋堯之、山口奈々子

3 要旨

モモせん孔細菌病は防除が困難な病害であり、総合的な防除により対策が実施されているが、一方では抵抗性品種の育成が要望されている。そこで抵抗性品種育成を目標に交雑した実生集団について、新梢に菌液の接種を実施した結果、病斑の拡大程度が小さい個体が確認された。

(1) モモせん孔細菌病に対して抵抗性が比較的強いとされる「もちづき」「つきかがみ」の後代実生の中から病斑の拡大程度が小さい6個体が確認された(表1、図1)。

(2) 今回確認した6個体の病斑の拡大程度は、高頻度で抵抗性が強い実生個体を獲得できるとされる「チマリッタ」「コーラル」と同等か小さい。

(3) 病斑長が小さい個体の中から育種母本となる系統を選抜し、抵抗性育種の育種素材として利用する。

表1 抵抗性個体と対照品種の病斑長

品種・系統	病斑長 (mm)	
	平均値±標準偏差	
164-8	6.6	± 2.7
育 165-2	7.0	± 2.3
成 165-6	7.1	± 1.3
系 165-8	5.5	± 1.4
統 168-12	6.6	± 1.5
169-1	6.9	± 1.7
チマリッタ	10.8	± 3.7
コーラル	7.2	± 1.9
品 ゆうぞら	14.5	± 4.8
種 あかつき	12.2	± 2.4
黄金桃	16.8	± 7.2
つきかがみ	12.4	± 4.7

164: (もちづき×白秋)×ゆうぞら
 165: つきかがみ×ゆうぞら
 168: (もちづき×モモ福島8号)×黄金桃
 169: (105-20×104-4)×黄金桃
 105: もちづき×白秋
 104: もちづき×モモ福島8号



図1 菌液接種による病斑の拡大程度

4 成果を得た課題名

(1) 研究期間 令和3～令和7年度

(2) 研究課題名 個性豊かな県オリジナル果樹品種の育成

[福島県とJAグループ福島による福島県産農産物競争力強化のための共同事業]

5 主な参考文献・資料

(1) 末貞佑子, モモせん孔細菌病の抵抗性評価法, 植物防疫, 70 (7), p.448-450, 2016.

(2) 農研機構果樹茶業研究部門 2018年の成果情報, 「Chimarrita」「Coral」はモモせん孔細菌病抵抗性の有望な育種素材である